

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-191878

(P 2 0 0 1 - 1 9 1 8 7 8 A)

(43) 公開日 平成13年7月17日 (2001.7.17)

(51) Int. Cl. 7	識別記号	F I	テーマコード (参考)
B60R 21/00	630	B60R 21/00	630 A 3D018
B60K 28/14		B60K 28/14	3D037
B60R 22/32		B60R 22/32	

審査請求 有 請求項の数 1 書面 (全4頁)

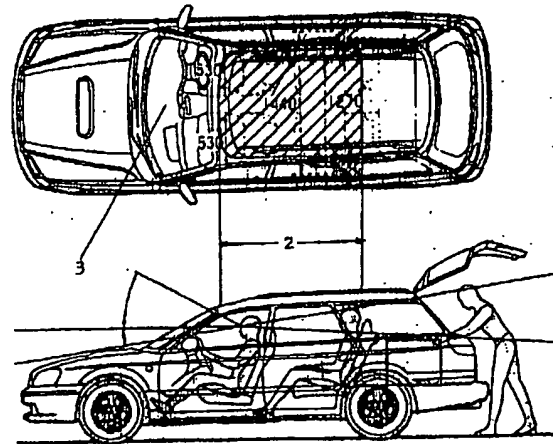
(21) 出願番号	特願平11-377401	(71) 出願人	599054385 大串 英雄 長崎県佐世保市須佐町15番7号 県1-20 4号
(22) 出願日	平成11年12月31日 (1999.12.31)	(72) 発明者	大串 英雄 長崎県佐世保市須佐町15番7号 県1-20 4号
		F ターム (参考)	3D018 FA03 3D037 FA13 FA19 FA31 FB00

(54) 【発明の名称】 自動車 が 不意に 水没した時の乗員脱出口の自動開口装置

(57) 【要約】

【課題】 運転者の誤操作等に依る水没事故の時、水圧感応センサー (1) に依り自動的に脱出口 (2) とウインド・ガラス (3) の取り付け部分を開放開口して乗員の車体内からの脱出を容易にすること。

【解決手段】 水没時は、水圧感応センサー (1) で感知して作動し、自動的に乗員席上部の脱出口 (2) と、フロントパネル (21) に取り付けたウインド・ガラス (3) の取り付け用ウエザーストリップ (4) と (5) の焼却部分 (6) を焼却除去して開放開口、同時にシートベルト (7) のフロア側取り付けボルト (8) もそれに内蔵の火薬 (9) の電気雷管で破碎除去して乗員の脱出を容易にした。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 運転者の誤操作等に依る車輛の水没事故の時、水深に対応する水圧感応センサー（1）を作動させ、乗員席上部ルーフ部分に設けた、脱出口（2）と、フロント・パネルに取り付けるウインド・ガラス（3）の取り付け用焼却可能なウエザーストリップ（4）と（5）を、自動的に焼却破砕し、同時にシートベルト（7）の車体フロア側取り付けボルト（8）も、それに内蔵の火薬（9）の電気雷管で破砕して取り外し、乗員の車室内からの脱出を容易にし、又走行中突然の洪水等で浸水した時、水圧感応センサー（1）に水圧が掛からない状態の時は手動で、水圧感応センサー（1）を作動させる。自動車が一意に水没した時の乗員脱出口の自動開口装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、自動車が一意に水没した時の乗員脱出口の自動開口装置に関する。

【0002】

【従来の技術】自動車の水没時、特別に乗員脱出口としての装備は無く、すべて運転者の操作に依る。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】不意の水没事故の時、予め定めた深度でルーフ部分に設けた乗員脱出口（2）とウインド・ガラス（3）の取り付け用、焼却可能なウエザーストリップ（4）と（5）を自動的に焼却破砕して開放開口し、同時にシートベルト（7）も取り外して乗員の車室内からの脱出を容易にする。

【0004】

【課題を解決するための手段】自動車で水没時は、水圧感応センサー（1）を車輛の計器盤付近に装備して、その水深1m以上で作動する様に調整して置き、それを感じし座席上部に設けたルーフ部分脱出口（2）と、フロアパネルに取り付けるウインド・ガラス（3）の取り付け用、ウエザーストリップ（4）と（5）の焼却部分（6）を自動的に焼却開放開口し、シートベルト（7）の車体フロア側取り付けボルト（8）も、同時にそれに内蔵の火薬（9）の電気雷管で破砕し除去され、水圧の掛からない地上では、水圧感応センサー（1）を手動で作動させる。

【0005】

【発明の実施の形態】発明の実施の形態を実施例に基づき図面を参照して説明する。水没時には、図1の水圧感応センサー（1）は、予め設定された深度以上で作動し、図2の座席上部のルーフ部分の脱出口（2）とフロント・パネルに取り付けるウインド・ガラス（3）の取り付け用ウエザーストリップ（4）と（5）の断面図に示す（6）の焼却部分の脱出口（2）とウインド・ガラス（3）の取り付け部分、一周全部を焼却してシートベルト（7）の車体フロア側、図5の取り付け用ボルト

（8）も、それに組み込まれた火薬（9）の電気雷管で破砕して除去し、車体内外の水圧の差が少なくなつたら、脱出口（2）とウインド・ガラス（3）を取り外して脱出を容易にする。地上で洪水等に遭遇した場合、各ドアからの脱出困難な時等、水圧感応センサー（1）に水圧の及ばない状態の時は、手動で水圧感応センサー（1）を作動させ、ルーフ部分脱出口（2）を開口するか、ウインド・ガラス（3）を開口して脱出する。

【0006】水圧感応センサー（1）が作動してウエザーストリップ（4）と（5）の焼却部分（6）とシートベルト（7）の車体フロア側取り付けボルト（8）の破砕用火薬（9）の電気雷管への点火、起爆用等の作動用電源には確実な作動をさせるため専用の乾電池を使用する。水圧感応センサー（1）の、非常用手動スイッチには誤操作防止のため、非常用手動スイッチカバーを付加する。

【0007】図2の脱出口（2）とウインド・ガラス（3）の取り付け用ウエザーストリップ（4）と（5）は、断面図3と4に示す（6）の部分の焼却できる機能を持たせるため、此の部分の材質はゴムを主体の火薬類の応用技術に依り、導火線の働きと同時に焼却可能な材質の部分とを一体構造に形成するか、又は接着して一体にしてルーフ部分脱出口（2）とウインド・ガラス（3）の取り付け用としての気密を保つ機能を持たせる。

【0008】

【発明の効果】本発明は、以上説明したように構成されているので、以下に記載されるような効果を奏する。

【0009】不意に運転する車輛が水没した時は、水圧感応センサー（1）の作動に依り、脱出口（2）とウインド・ガラス（3）の取り付け用ウエザーストリップ（4）と（5）の焼却部分（6）が自動的に焼却開放され、同時にシートベルト（7）のフロア側取り付けボルト（8）も除去され、走行中洪水等で浸水した時は、水圧感応センサー（1）が所定の水圧に達しないため水圧感応センサー（1）を手動で作動させて脱出口（2）を開口し、必要に応じウインド・ガラス（3）も開口して乗員の脱出を容易にする。

【図面の簡単な説明】

【図1】水圧感応センサー（1）の断面図

【図2】車体縦断面図、ルーフ部分の脱出口（2）の取り付け部分

【図3】脱出口（2）の取り付け用ウエザーストリップ（4）の断面図

【図4】ウインド・ガラス（3）の取り付け用ウエザーストリップ（5）の断面図

【図5】シートベルト（7）車体フロア側、取り付け用ボルト（8）の断面図

【図6】シートベルト（7）と取り付け用ボルト（8）の取り付け位置図

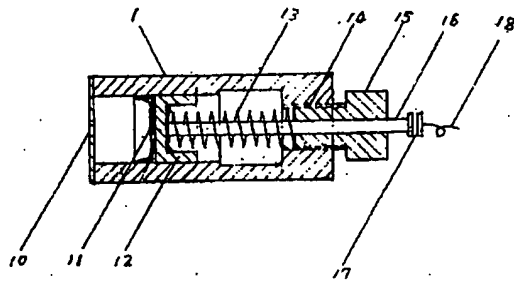
3

4

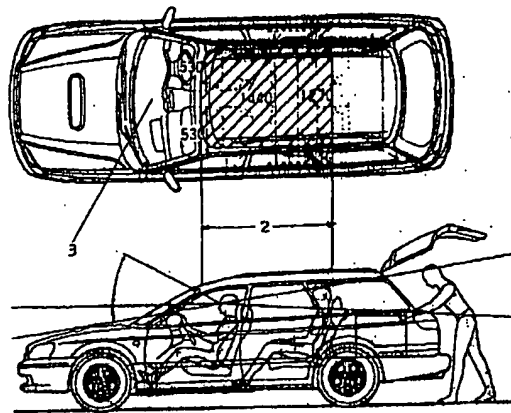
【符号の説明】

- 1 水圧感応センサー
 2 脱出口（ルーフ部分）
 3 ウインド・ガラス
 4 脱出口（2）の取り付け用ウエザーストリップの断面図
 5 ウインド・ガラス（3）の取り付け用ウエザーストリップの断面図
 6 ウエザーストリップの焼却部分
 7 シートベルト
 8 （爆発）ボルト、シートベルト（7）のフロア側取り付け用
 9 火薬（電気雷管）、ボルト（8）の破碎用
 10 水圧水取り入れ口
 11 水圧受けゴム カップ
 12 水圧受けピストン
 13 スプリング
 14 ネジ部
 15 水圧（深度）微調整ねじ
 16 作動用押しピン
 17 作動用電源接点
 18 脚線、（接続用）
 19 アウタ パネル
 20 インナ パネル
 21 フロント パネル
 22 フロント インナ パネル
 23 （爆発）ボルト（8）の切断面
 24 火薬（電気雷管）ボルト（8）の取り付け箇所

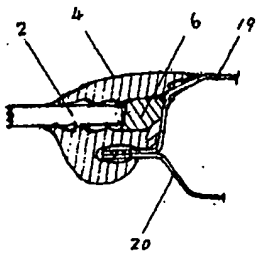
【図1】



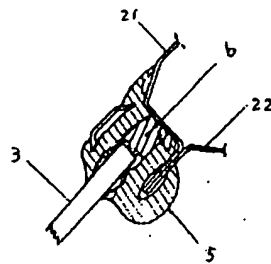
【図2】



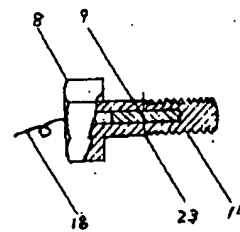
【図3】



【図4】



【図5】



【図6】

